～壊し屋～The 2nd

蛇

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

～壊し屋～Ｔｈｅ　２ｎｄ

【Ｎコード】

Ｎ８４８７Ｐ

【作者名】

蛇

【あらすじ】

あなたはなにを壊してもらう？

（前書き）

あけましておめでとうございます

あるところに破壊の神に好かれた男がいた。
その男の目は人の精神を壊し
その男の左腕はあらゆる人や物を壊し
その男の右腕は空間を壊した
見る、触れる、それだけで男はすべてを『壊す』。
だが男はそれを嫌がらなかった。悔やまなかった。
男はすべてを受け入れた

「また壊し屋の仕業かな？」
一人の刑事は現場を見ながらそうつぶやいた

「なんすか？壊し屋って」

「ん？ああお前はこの町に来たばっかだったな。壊し屋ってのはこの町の都市伝説さ」

「都市伝説・・・・すか？」

「そっ都市伝説。金さえ払えばどんなものでも『壊して』くれる」

「でも伝説なんすよね？」

「そのはずなんだが実際にこんなの見たら信じるしかないだろ」

そういった男の目線の先には体のあちこちが『壊された』死体があった

進化の途中の町　赤月町

今日も闇夜を紅の髪が走る

～壊し屋～Ｔｈｅ　ＢｒａｋｅｍａｎＳｔｏｒｙ

とあるＢＡＲ

「へー、俺のことを調べている刑事がいるのか」
紅い髪の男、トロイヤの言葉にＢＡＲの経営者であるミーシャはうなずく
「そうよ、だからトロイヤ、しばらくは活動をやめたほうがいいんじゃない？」
「悪いがそれは聞けないな。俺から『壊す』ことをとったらなにも残らないからな」
「そんなこと言わないでよ悲しくなるじゃない」
「と言われても事実だからな、しかたないさ」
「とにかく、できるだけ活動を控えなさい。あなたが捕まったなんてニュース見たくないもの」
「なんだやけに心配するな。なにかあったのか？」
「別に・・・・なにもないわよ」
「そうかい」
「・・・・この鈍感男」
「ん？なにか言ったか？」
「なんでもないわよ」
トロイヤの言葉にミーシャは少し顔を赤らめながらこたえた

とある廃墟

「すみません、あなたが壊し屋ですか？」

「ん？」

いつもの場所に戻ってきたトロイヤは一人の男に声をかけられた

「そうだけど、依頼かい？」

「はい実はある作品を壊してほしいのです」

「作品？」

「はい。昔私はある男と一つの作品を作っていました。しかしその男はその作品を自分一人で作ったものとして世間に公表したのです。私が気づいたときにはすでに手遅れでした・・・・」

「ふーん。で、その作品の名前は？」

「名前は・・・・・『水月』です」

赤月警察署

「美術展？」

「そ、美術展。高橋君ずっと壊し屋のこと調べてるでしょ？だから息抜きにどうかなと思ってさ」

「じゃあいかせてもらおうかな」

「それじゃ明日１０時駅前ね」
そういって女性は男のもとから離れていく。

「さて・・・・」
男の名は高橋（たかはし）　太一（たいち）トロイヤによって家族を『壊された』男である。
それ以来憎しみのままに壊し屋を追い掛けている

「ぜったいにやつを捕まえてやる・・・・」
彼の瞳は憎しみの炎で燃えていた

翌日

「へーすごいね」

「でしょ？」

二人は美術館にきていた。そのときだった

《バチン！》

「なんだ？」

「停電？」

《バチン！》

「あっ、ついた」

「ん？なんの騒ぎだ？」

「大変だ！先生の作品が『壊された』！」

「作品？」

「先生の作品、『水月』が『壊された』んだ！」

「『壊された』？まさか壊し屋！」

そのとき太一の隣を紅い髪が通り過ぎていった

「！！！壊し屋・・・見つけたぞ！」

「ちょっ！太一君！？」

「さーて今日は豪勢にいこうかな？」

「待てそこの男！」

「ん？」

「お前・・・・壊し屋だな？」

「・・・・・だったらどうする？」

「だったらお前を器物損害の現行犯で逮捕する！」

「・・・・悪いけど」

トロイヤは右手の手袋をとり

「捕まるわけにはいかないんだね」

なにもない空間を叩いた。すると周りが揺れだした

「な！？なにをしたんだ！」

「なーに、少し空間を『壊した』だけだ。じゃあな！」

「ま、まちやがれ！」

太一がとめようとしたときはすでにきえた後だった

「くそっ、絶対に捕まえてやるからな！」

町のどこかにいる壊し屋。あなたはなにを『壊して』もらう？

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8487p/

～壊し屋～The 2nd

2011年1月8日23時24分発行